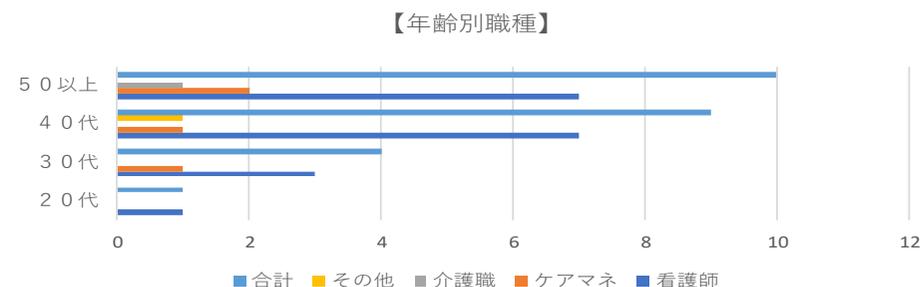


人生の最終段階の医療と介護の意思決定支援【大切な人の看取り・もしバナゲーム】ワークシート集計

日時：8月30日（金）17:00～18:45 場所：長浜市民交流センター 参加者 25名+事務局2名+講師1名 回答数 24人（回答率96%）

●職種別年齢層

職種	20代	30代	40代	50以上	合計
看護師	1	3	7	7	18
ケアマネ		1	1	2	4
介護職				1	1
その他			1		1
合計	1	4	9	10	24



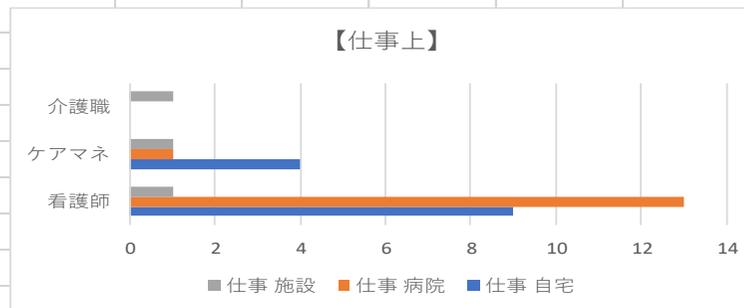
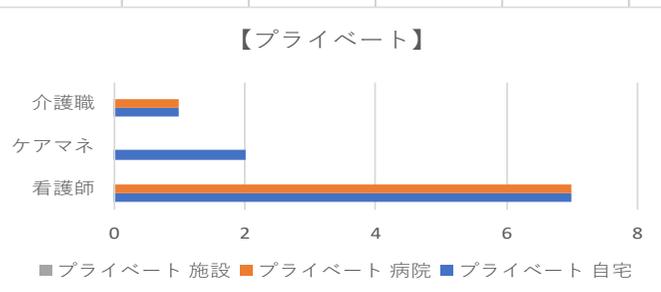
●職種別看取り経験の有無と内訳

職種	なし	あり	プライベート			仕事		
			自宅	病院	施設	自宅	病院	施設
看護師	0	18	7	7	0	9	13	1
ケアマネ	0	4	2	0	0	4	1	1
介護職	0	1	1	1				1
その他	1							



●職種別看取り場所の内訳

職種	プライベート			仕事		
	自宅	病院	施設	自宅	病院	施設
看護師	7	7	0	9	13	1
ケアマネ	2	0	0	4	1	1
介護職	1	1				1
その他						



●回復が見込めない人生の最終段階を想定した時のあなたの気持ちと、もしバナゲーム後の気持ち（看護師）

- ・本当に死に際は一人ぼっちは嫌。家族じゃなくてもだれかが傍に居て欲しい。家じゃなくてもいい。
- ・家族との関わりを大切にしたい。自宅で家族と一緒に過ごしたい。痛み苦痛はとってほしい。延命はしてほしくない。
- ・家族との時間を大切にしたい。けれど、家族に負担はかけたくない。告知はすべてしてもらったうえで、その時の状況で過ごし方を自身で考えたい。呼吸器、心マは嫌。
- ・家で家族のそばで過ごしたい。何もなくていいが、もし痛みがあるのであれば痛みだけはとってほしい。
- ・自宅で家族と過ごしたい。これから家族が生きていくため、不安にならないように出来るだけの準備をしておきたい。
- ・家で家族との日常の生活を大切に、家で最期をむかえたい。つらい痛いは嫌なので、在宅医療で緩和ケアをメインに受けたい。家族への負担がないようにサービスも受けたい。
- ・できる所までは治療はしたい。つらい症状で耐えられなくなったら治療をやめて症状コントロールを行う。したいことをして、家で過ごしたい。サービスを使って家族の負担は少なくしたい。
- ・時間を大切にしたい。特に家族との時間。できるなら自宅で過ごしたい。
- ・子供が小さいので子供が自分の力で生活できるようになっていくのを見守りたいが…。それが無理ならば子供ができることを増やしたい。少しでも困らないようにしたい。私の代わりに子供の事をしてくれる人に、子供のことを託したい。
- ・家族子供笑顔と一緒に過ごしたい。それが自宅であっても病院であってもどこでもよい。

- ・結婚したい。お金を大事にしたい。貯めよう。
- ・カードの内容がどれもなるほどなと思えるもので、その時の状況によっても変わってくるのかなと思いました。
- ・家族に今の気持ち（死に対する思いや希望）を伝えられていない。きちんと話し合うことが必要なんだと思えた。
- ・やはり家族に傍に居て欲しいという気持ちが強くなった。また、まだまだ子供が小さいので成長を見届けるまでは生きていたいと思う。
- ・ゲーム前は亡くなる前の思いややりたいことを考えていたが、自分が亡くなったあとの事について考えた。家族が困ることのないようにしたいと思った。
- ・もしもの時の事を具体的に考えて、家族に伝えておかなくてはいけないと思いました。考える項目はたくさんあるなあと。
- ・自分がどうしたいかを考えて見守ってもらいたいけど、家族は私の事をどう思っているかによって、支えてくれる人に任せても良いかもと思った。
- ・自分の気持ちは自宅で死を迎える覚悟ができているが、家族の気持ちや覚悟がどうなのか話し合っておく必要を感じた。
- ・自分にとって大切なことは、子供のことなのだとということが解った。医療をどう受けるや最期をどこで迎えるということよりも、子供にとって良い事を優先したいと思っている。子供は私にとって大切なことを優先したいと思うので困った患者になることが解った。
- ・まだイメージ出来ていない事や考えが浅いなあとと思った。何を大切にしたいかと思っても、自分の事よりも子供主体に考えることが多く、自分主体に考えられていず、自分はどうしたいか…最期はわがままに生きて過ごしてもいいのかな。
- ・同じ考えをしている人もいて、安心した。
- ・家族のこと自己決定することなど、話をしたり意志を伝えておくことが大切

- ・子供たちの気持ちを確認して自分の好きなように過ごしたい。苦痛のないように。
- ・子供も大きくなってきたので、何も思い残すことが無いので、ありのままを受け入れ延命治療はせずに苦痛を取り除いて死を迎えたい。ただ場所のこだわりはなく、子供たちの迷惑にならないようにしたい…という思いはあり。その時の家族の状況により自分はどこでも可。その気持ちを伝えておかなければと思う。
- ・自宅で家族と関わりをもって、苦痛を最小限にして過ごしたい。在宅医。サービス利用と家族の介護。負担を与えたくない。
- ・積極的な治療は受けない。緩和ケアを自宅でうけ自然な形で最後をむかえたい。
- ・家族に迷惑かけない様に家族と一緒に過ごす時間を作りたい。
- ・楽しいことをやりつくしたい。家族や友人たちに囲まれていたい。延命治療はしてほしくない。天寿を全うしたい。
- ・体が動くなならやりたいこと、行きたい場所へひとつでもいく。自宅でこれまでの生活とあまり変わらなく暮らしたい。苦痛の（痛みにもコントロール）緩和だけ望みます。
- ・痛みや苦しみのないよう楽に過ごしたい。積極的な治療はしたくない。

で、同じように思ってる方が多いと感じた。今からやっておかないといけない事、できる事があるなど思いました。家族全員でまとまって話をしていないことに気づく。（バラバラに話している）

- ・自分が死を迎えるにあたり、死後のこともふまえ（葬儀のことや身辺整理）考えておいた方がよいと思った。家族や周囲の人と、どうしたいか話し合うことが大切と改めて感じた。
- ・日頃家族と話し合っているのでも、気持ちの変化はありません。カードの内容は違うが同じ思いをもっていると思いました。
- ・グループで話す人みんな家族のことの心配をしながらの最後を迎えることを希望し、延命や自宅での死など不要な医療を希望しないということを家族としっかり話し合っておく必要がある。
- ・淋しく死を迎えるのは悲しい。緊急時の通報についても決めておいた方がよいと感じた。（家族の混乱を第3者が落ち着かせてくれるように）身辺整理をきちんと決めておく必要がある。
- ・皆同じような事を心配していることがわかった。寂しい穏やかに死にたい。痛いのはいや。残された人が困らない様にお金身の回りの整理など。
- ・自分の意見をはっきりさせることが大事で、家族ともしもの時のことを話あっていくことが大事だと思った。

●回復が見込めない人生の最終段階を想定した時のあなたの気持ちと、もしバナゲーム後の気持ち（ケアマネ・介護職・その他）

- ・住み慣れた自宅で胃ろうや延命などせず、自然にまかせて最後をむかえたい。少しでも長く家族とゆっくり過ごしたい。
- ・痛みや苦痛を和らげるように治療を。延命治療は不要です。周りに家族に居てもらいたいと思うが、自分が一人で静かに過ごせる環境や時間を作ってもらいたい。まったく関係ない方に気持ちの整理を聞いてほしい。
- ・延命治療をせず場所はどこでもいいので、家族に心配かけずに逝きたい。

- ・普段考えていないことなので、いろいろと死以外にも身辺整理やお金のことも話し合っていく必要があると思いました。子供にも伝えて行く必要がある。
- ・自分の心（穏やかな気持ち）になることが自分の一番の希望。家族への信頼に気づきました。（延命治療してもいいかな）迷惑はかけたくないが。
- ・なんとなく死を覚悟していた自分を発見した。
- ・医療や介護職に付き人の死を目の当たりにしている人たちは自分の最後につ

<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で信頼できる医師にかかりながら、自分の家で家族に囲まれて死んでいきたい。まだもう少し歩けるうちに会っておきたい人に会いに行きお礼が言いたい。 ・家族の負担を考慮。誰にも負担にならないところで過ごす。それが病院でも施設でも自宅でも構わない。医療は必要ない。自力摂取できるところまでが自分の命と思っている。 ・家族に相談して家族に思いを聞いてみる。治療が可能であるまでは治療をしたい。 	<p>いてもしっかりとした意志を持っておられるのだと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選び3枚カードは全て相手があつてのカードだったけれど各々の相手に自分の思いをそれほど細かく伝えたことはないと再認識しました。選んだカードが現実的になるようにしていきたい。今自分が幸せなのがあった。 ・日常の生活の中では死ということについて直面することがなければ考える機会を持たない。カードを前にして考える場を与えられると考えることができた。時々機会を得て考えていかないといけないと思いました。
---	---

もしバナゲームを通して、自身の大切な事や価値観を再認識した中で、専門職として利用者さんに何ができるか？

1 G	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護では、導入の際に自宅看取りと決まっているので、意思決定支援をしても良いのか？それを考えるために参加した。看取り場所においても家族と本人の気持ちに差異があることを経験している。 ・祖母を亡くした際に、職員から思い出話をしてもらったことがあり、心に残っているのでケアマネとしても死後の挨拶の時に思い出話をしたい。 ・自施設では、利用者さんのご家族に「最期をどうしたいか」と郵送で聞き取りをしている。「できるだけケアを！」と希望される家族が多いが、考えてもらえるきっかけになればと思っている。 ・「最期は自宅」と決めておられても、命の最終段階で心臓マッサージを受けながら救急車来院される。家族は希望と違う選択をしてしまっている。 ・子供はまだ小さいので、自分の気持ちと子供の気持ちは違うと思う。合意が難しい。
2 G	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院支援室勤務であり、在宅へのつなぎ役。何を思っているのか聴く。現状を伝える。 ・家族（母）の看取り時、ICUのNSが最後、「お母さんってどんな人でしたか」と聞いてくれたのがとてもうれしかった。 ・日々の看取りで、「どうしたい？」と聞いていない。家族に手紙を出す→全力でケアしてほしい。人が多いが、家族で話しあったこともない人がほとんど。これをきっかけに考えてもらい医療的ケアをどこまでするのか考えてもらえるように。 ・意思確認を行う時に初めて話し合う。機会になることが多い。家族の意向。 ・自宅での看取り時、本人の意思はどうだったのか気になる。意思決定を看護師がしているのか、医師がするものなのか。本人と家族の意志が一致できるといい。認知症があるなどの問題がある。 ・家族がびっくりして救急にこられることがある。管を入れたり、外来でターミナルの方もいる。病気の知識や考えている人もいる。本人の意思に沿っていけるようになってきている。

3G	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に告知されていない場合、どうしたいか希望が聞けない。どうすればよいか。 →話すしかない。一般的な話題として訪ねてみたらどうか。 ‘がん’というところに目を向けるというより、年齢的なものからととらえて切り出す。 訪看が入っているとすでに聞いているかもしれない。 ‘がん’は準備がしやすい。 看取り士の存在
4G	<ul style="list-style-type: none"> ・透析（延命治療）家族へ伝えていく。透析すれば楽になると（知識が不足） ・利用者に寄り添い、代弁していく。 ・患者と家族の思いが違う。意見のすり合わせ。 ・在宅に戻ると患者は不安。「家に帰ってよかった」という方もいる。不安を取り除けたらいい。 ・話をすると、「何もしない」共通している。本人のしたいことを叶える。 ・家族の不安を取り除く。 ・家族と医師の橋渡し。医師には遠慮がある。本人、家族の思いを医師へ伝える。 ・どうしたいのか気持ちを聞くこと。病状の変化に応じて、サービスを調整。いつでも連絡、相談できる体制を整えておく。

全体意見

●講義について

- ・看取りに対する大切な要因が再確認できた。
- ・知識として再確認できたこと、新たに気づいたこと。今後の仕事、自分のことに活かしたい。ありがとうございました。
- ・自分の行っているケアを再度確認することができよかった。
- ・改めて聞くと気にかけていたこともわかり易かった。
- ・今後のケアの参考になることが多かった。
- ・とてもわかりやすく、大切なことに気づかされた時間でした。ありがとうございました。
- ・わかりやすくよかった。
- ・どの人にも意思決定があり、その間に入る医療者として何ができるかを再度考えたい。

- ・看取りについて私の立場から聞いてみたい。
- ・意思決定の必要性について理解することができた。終末期において70%の患者では意思決定が不可能ということがわかった。死について考えるよい機会でした。
- ・死が日常になることはなかなか難しいけれど、そこへのプロセスを大切にケアしていきたいと思った。
- ・人生の最後についてもう一度考えさせてもらえたと思います。ゾウの絵本が泣きそうです。
- ・「死」について考えること。自分の死について考えることが出来ました。
- ・死に対して日頃から家族と話すことは今までなかったので、話し合っておきたいなと思いました。ありがとうございました。
- ・もしもの時にどうしたいと思っているのか、話し合うことの大切さを改めて感じました。看取りをする上で患者さんや家族との信頼関係を築き、思いを理解できるよう努めたいです。
- ・緩和ケアについて、死を自然の過程と認めることだとは思ってなかった。学びになった。
- ・本人に寄り添うケア、本人にとってベストな支援であるか。
- ・本人と家族が望む最後が違う場合も多々あるが、本人の望むことを聞き出し支援していきたい。
- ・看取り研修でいろいろな視点や考え方があり参考になりました。
- ・看取りについて基礎的なお話をきくことができず、今度はそれを地域や実際の場面へもっていくための勉強がしたい。
- ・とても参考になりました。

● 「もしバナゲーム」について

- ・自分の死についても考える機会となった。家族とも話し合ってみたい。
- ・身近な人とできるといい。
- ・自分の気持ちが再確認できよかった。職場や家でもやってみたい。一般的にゲームを行う機会が増えていけばよい。
- ・特別な思いを持った人はなく、人の思いは大体同じ。でも病気等しておられると少し現実的となる。
- ・もっと気軽なものかと思っていたが、意外と重いものでした。でも、自分の気持ちを見つめ直せました。
- ・カードの内容から日頃の自分の思いに向かい合うことができ、考えるきっかけとなった。とても貴重な時間でした。
- ・いろんな意見が聞けてよかった。
- ・自分を知る良いきっかけになった。自分を見つめ直し、自分の死についてまず考えていけたらと思う。
- ・みんなは死について考えていることがわかった。
- ・いろんな職種の意見が聞けた。それぞれにかかわり方、役割がある。看取りをするには、本人家族の思いをすり合わせていくことが重要。結局はそれぞれが

療養者にとって最善な最期は何かを考えていける事がわかったし、不安や課題となる部分もでてきた。

- ・死の迎え方についてみんなの意見を聞いて考えることができた。自分の子供ともいつか話をしなければ。
- ・どういうゲームかよくわかった。
- ・死を考えるきっかけになった。
- ・死に対する自分自身の考え方や他の方の意見から感じ取れる事も多く、とてもよかったです。
- ・自分自身ももっと深く考えたいと思いました。
- ・死をむかえることを考えることができて楽しくてよかった。
- ・実際に行ってみたいと思った。
- ・今まで考えたことがない事を考えさせられた。
- ・選んだカードは違っていても、選んだ理由は同じような内容でみんなが同じことを思っていて、普通に話し合ってもよいのではないかなと思います。
- ・知ってはいたが経験できてよかった。



(文責) 長浜米原地域医療支援センター